

第3章 復興支援活動の検証

復興支援活動の検証とこれからの支援活動のありかた

北上市では、自分達が行ってきた支援活動をアンケートなどで振り返りながら、次の支援活動に繋げる取組を継続的に行って来た。

避難者からの評価

北上市では大規模災害に対する支援活動の経験がなく、走りながら支援活動を実施してきた。そのため、平成23年度に北上市が行ってきた避難者生活支援活動についてアンケート調査を実施し、その活動内容を振り返りながら次年度以降の活動の参考とした。

【アンケート調査の概要】

【調査対象】平成24年1月25日現在で、北上市に避難している277世帯の世帯主

【調査方法】郵送による記名式回答

【評価方法】「良い」「概ね良い」「普通」「やや悪い」「悪い」の5段階評価

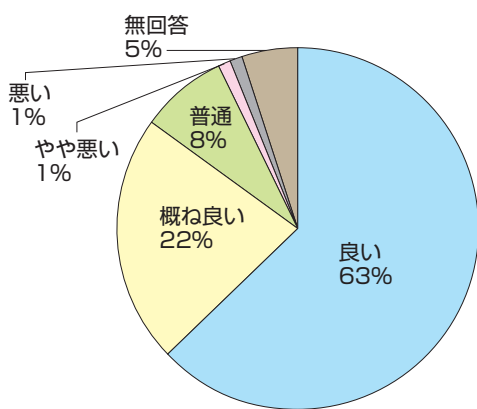
【設問内容】

これまで北上市（市内関係団体含む）は、当市に避難されている方に対し、以下の支援活動を独自に行ってきました。

- ・夏物用品購入支援（商品券の配布）
- ・雇用促進住宅の暑さ対策（網戸設置等）
- ・生活物資の常設配布
- ・各種情報の発信（月2階のDM：絆便）
- ・避難者総合相談会（雇用相談含む）
- ・生活支援相談員による巡回訪問
- ・暖房器具の配布
- ・灯油の助成（配達支援含む）
- ・ふるさとカフェ（コミュニティ支援）
- ・イベント等への招待

こうした支援活動全般について、どう思われますか？

北上市（市内関係団体含む）の支援活動評価



調査対象世帯：277世帯

回答数：149

良い	概ね良い	普通	やや悪い	悪い	無回答
94	33	12	2	1	7
63%	22%	8%	1%	1%	5%

国、県、沿岸被災自治体、専門家からの評価

これまで行ってきた避難者支援活動や被災地の復興支援活動を全般的に検証するため、平成26年2月1日に「北上市震災復興支援シンポジウム」を開催した。国、県、沿岸被災自治体、専門家から次のような評価をいただいた。

- ・北上市の取組は、他内陸市町村での避難者支援にも波及している。沿岸市町村はもとより県としても非常に心強く感じる。(岩手県)
- ・仮設支援事業は、住民コミュニティの形成支援に寄与した。(藤沢)
- ・行政マンパワーが不足している時期に、事業立ち上げてもらい。仮設入居者の安心な生活を実現できている。(大船渡市長)
- ・国、市、NPOが連携して作り上げた仮設住宅への支援の仕組みがこれからの復興支援に向けた一番大きな成果だと思う。(岡本統括官)
- ・北上市がNPOの活動が大事と理解を示し、行政とNPOが組んだことが、様々な事業展開につながった。北上市の協働の仕組みが本当のまちづくりで評価できる。(鹿野代表、北原先生)



これからの復興支援活動のありかた

同じくシンポジウムでは、これからの支援のあり方について、次のような意見や提言をいただいた。これらを参考に、これからの支援活動を行って行くことにしている。

- ・仮設住宅が縮小してくるなかで、コミュニティをどうやって支援していくかが重要。
- ・災害公営住宅などの新しい居住先で見守り支援やコミュニティ支援が必要。
- ・市民がまちづくりに参加するノウハウ移転をして欲しい。



- ・これからの復興まちづくりの支援は、自分達で担っていけるように、エンパワーメント（自ら立ち上がるため背中を支えてあげること）が重要。
- ・支援する主体もそれぞれの役割を整理し、共助の仕組みを作りあげることが必要。
- ・支援を受けた後、支援に依存せず自らが向かって行くための支援をしていかなければならない。(受援力を高める。受援から、自分達が支援に回るための組織作りが必要となる。)